日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（旧　名古屋第二赤十字病院）で診療を受けられた患者さんへ

～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	急性期脳卒中後上肢麻痺に対するロボットアシスト療法の治療効果に影響を与える関連因子の検討			
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日　～（西暦）2027 年　　3 月　　31 日			
研究実施診療科	医療技術部リハビリテーション科			
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2026 年　7 月　3 日		
	院長が研究実施を許可した日	2026 年　7 月　6 日		
対象となる方	2022 年　12 月　1 日～2026 年　5 月　31 日の期間に、当院リハビリテーション科において、作業療法およびロボットアシスト療法を受けた方			
研究責任者	所属	医療技術部リハビリテーション科	氏名	寺島　有希子
研究の意義・目的	2022 年 12 月より、当院では脳卒中後に手や腕が動かしにくくなった患者さんに対して、リハビリを支援するロボット（ReoGo®-J）を導入しました。このようなロボットを使ったリハビリは、これまでの研究で効果が確認されており、実施が強く勧められています。 しかし、これまでの研究は、発症からある程度時間が経った患者さんを対象としたものが多く、発症直後の患者さんに対する効果については、十分に分かっていません。一方で、脳卒中後の手や腕の機能は、発症から約 8 週間の間に大きく回復しやすいといわれており、この時期に適切なリハビリを行うことが重要です。 そのため、本研究では、ロボットを使ったリハビリを含む作業療法を行う前後で、麻痺した手や腕の動きがどのように変化するかを調べます。また、どのような患者さんにより効果が出やすいのかを明らかにし、今後のよりよいリハビリにつなげることを目的としています。			
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、統計学的に検討します。			
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、個人を直ちに特定できるような情報とは			

	切り離した状態で使用します。（年齢、体重、性別等の基本情報、リハビリテーション治療の情報、入院日数等）
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報等は、将来、本研究に関連する別の研究のために利用させていただく可能性があります。その場合には、その計画について別途倫理審査を受け、承認を得た上で使用します。二次利用を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 医療技術部リハビリテーション科　　山田　陽平 電話　052-832-1121（代表）